クローズアップ
CLOSE UP

ツツジと初夏楽しんで

6月25日㈰まで「赤城山新緑＆つつじWEEK」を開催中。山頂付近各所でツツジが見頃です。期間中はスタンプラリーやトレッキングなどのイベントも。天気が良い日は空と新緑、ツツジのコントラストがとても鮮やかです。初夏のひとときをぜひ、赤城山で。

バラのアーチで祝福

ばら園で5月28日、芥川達也さん、香織さんが結婚式を行いました。当日の来園者がバラを持ってアーチを作り、2人を祝福。「おめでとう」の声が園内に溢れ、仕事の都合で結婚式を見送っていた芥川さん家族にとって、忘れられない日となりました。

みんなの善意動き出す

食料支援を必要とする人や福祉団体などへ食料を配布するフードバンク活動。6月1日にフードバンクまえばし事務所の開所式を行い、対象者の元へ食料を届けました。同事務所では、各家庭での食品などの寄付も受け付け。助け合いの輪が広がります。

いきいきまえばし人

自分を成長させる宝物

けん玉道四段　佐藤 永進さん・14歳　五中

世界にも広がりつつあるけん玉。佐藤さんは、県内の中学生で2人しかいない、けん玉道四段の保持者の1人だ。

「けん玉を始めたのは小6の秋。学校の先生が持ってきたのを、させてもらったのがきっかけです」

始めたらその魅力に強く引かれて先生たちとけん玉チームを立ち上げた。チームは広がりを見せ、今では社会人を含む多様なメンバーと楽しみながら技術向上に励んでいる。

「けんと玉を交互に持ち替えるジャグリング系の技が得意で、新しい技ができたときの達成感はすごいです」

チーム以外でも時間があればけん玉をしていて、どこへ行くときも持っていくそう。

「けん玉は自分を成長させてくれる宝物。いろいろな人と知り合うこともできました。将来はプロになりたいです」

けん玉と共に人生を歩もうとしている佐藤さん。当面の目標は、出場予定である7月に広島県で開催のワールドカップと、未成年で取得可能な最高位・五段の合格だ。

「ワールドカップは海外からの出場者もいます。まずは予選通過が目標。五段は県内では、大人も含め誰も持っていないので頑張りたいです」

迷いなく語る彼の未来が輝きに満ちることを期待したい。

アーツ前橋の舞台裏 vol.2

アーツ前橋の学芸員が美術館の舞台裏や自身のバックグラウンドなどを披露。第2回は辻瑞生が作品調査での出来事を紹介します。

問 アーツ前橋
☎027-230-1144

皆さんは前橋ゆかりの作家と聞いて誰を思い浮かべますか。アーツ前橋では、これまで収蔵作家を中心に地域ゆかりの作家を紹介してきました。

私は現在、来年春の展覧会のため、旧大胡町出身の画家・横堀角次郎の作品を調査しています。先日、大胡シャンテ内の横堀角次郎記念室で作品の採寸や絵画の裏側などを調べていた際に、ちょっとした発見が。横堀の前橋中学時代の同級生に、彫刻家の森村酉三がいますが、2人は共にグループを立ち上げたほど親交が深く、それを実感させる出来事でした。横堀の絵画に森村の印章が押された手彫りの額がはめてあったのです。普段、作品を額から外し裏側を見ることはできませんが、作品の裏面には制作年やタイトル、出品した展覧会など、時として思いがけない情報が隠されていることも。

調査を進め、展覧会で、その成果をお伝えしたいと思っています。横堀は「角さん」の愛称で地域の人たちにも親しまれ、秋の収穫時期になると、生家近くの農道などで制作する姿を目撃されていたようです。「角さん」の思い出がある人や作品を持っている人がいたら、アーツ前橋までお知らせいただければうれしいです。